

令和 4 年 6 月 10 日現在

機関番号：24501

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2021

課題番号：17K02647

研究課題名（和文）20世紀中国の文学形式と抒情の定型 ジャンル・言語・地域の越境面から見る

研究課題名（英文）Formation of Literary Styles and Lyricism in 20th Century China: Focusing on cross-genre, cross-lingual, and transcultural practices

研究代表者

津守 陽（Tsumori, Aki）

神戸市外国語大学・外国語学部・准教授

研究者番号：20609838

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、20世紀中国における文学の表現形式と表現内容との間に、いかなる連動や緊張の関係が生じてきたのかについて、東アジア全体の比較視野のもとに捉えようとするものである。主に国際ワークショップ主催（3回）、海外研究協力者との国際シンポジウム共催（2回）、紀要論文集刊行（1回）の成果を挙げた。研究と交流の過程では、文学創作における表現形式が当初の想定を超えて、実に多様な研究の視野、例えば音声メディアを通じた身体性の認識と方言表現との間の力学、権力や抑圧の中での表現や読解の探究と拒絶、境界にある主体の自己実現にとって言語表現が持つ意味などと密接に関わっていることが浮き彫りになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

今回の研究成果の意義は大きく分けて二点ある。

（1）異なる地域や言語文化を対象とする研究者による連続的な研究交流の場を築くことで、台湾・朝鮮・日本の文学状況と比較する広い視野のもとに、近現代中国の文学現象を考察できたこと。従来注目されてきた直接的な影響関係だけでなく、東アジア近代で同時代的に起こった文学現象として個別の事象を見る新たな視野を開くことができた。（2）従来「中国語の近代化」という研究視野にとどまりがちであった近代文学の表現形式の問題を、複数回のシンポジウム開催を通して、イデオロギーや教育、音声メディアや身体性との関わりなど、極めて多様な問題意識と結びつけることに成功したこと。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to examine what kinds of linkage and tension were produced between styles and contents of literary works in 20th Century China from comparative viewpoint with East Asian literature. Throughout five years of collaboration, our study group successfully organized three international academic workshops, co-hosted two symposiums in partner with overseas collaborators, and published a special bulletin. Through continuous research interactions, our study group illuminated how styles of modern and contemporary literature in East Asia have been in surprisingly close and large relations to a wide range of important issues of literature, such as dynamics between literary productions in dialects and the body awareness provoked by modern audio media, the act of exploration of the meanings of literary works and refusal of it under political suppression, or complexed meanings of literary representations for those who live in colonized areas under trans-lingual circumstances.

研究分野：中国近現代文学

キーワード：東アジア 文学形式 越境 表象 身体性 ジェンダー 音声と文字 抑圧

1. 研究開始当初の背景

(1) 国内において中国近代文学の形式(言語・文体・ジャンル)の変容を論じた研究は、二つの大きな流れを成していた。一つは中国語学の立場から白話文体の特徴を論じたもの。もう一つは中国文学研究の立場から近代文体の史的意義を探るものである。特に後者では漢字圏の解体と再編、言語とジェンダー規範、伝統文体の再吸収といった示唆に富む問題が提示され、本研究課題と問題意識を共有していた。

(2) むしろ中国・台湾・北米において、叙事形式の変容やジャンル形成といった形式の問題は、中国の「近代性」を探る試みの一つとして注目を集めてきた。1980年代以降、陳平原や Lydia H. Liu、王德威などにより物語論やカルチュラル・スタディーズを足場にした重要な問題提起と分析が行われ、現在も研究の盛んな分野の一つである。

2. 研究の目的

上記の通り一定の蓄積はあるものの、近代中国を文学の「形式」から考える研究には、主に三つの点において不足が目立っていた。第一に、既往の研究がほぼ清末民初から五四時期という成立時の探求に重点を置いており、それ以後の発展についての言及が少ないこと。第二に、文学の「形式」が他の研究視野、例えば文学作品を取り巻くポリティクスやイデオロギーなどに関する研究視野へと結びつかず、「形式」をめぐる視野に終始しがちであること。第三に、研究視野がしばしば「中国」の領域内に限られていたこと。

これらを踏まえ、本研究では文学形式の「成立」のみならず、20世紀全体を視野に入れて定着・発展面において観察すること、また「形式」と「内容」との相互関係に着目すること、そして東アジア全域において、同時代的にどのような形式と内容の連動が起こっていたのか、あるいは異なる言語や地域を跨ぐ存在にならざるを得なかった植民地では何が起こっていたのか、といった越境的視野から比較研究することで、中国の現象を相対化することを目指した。

3. 研究の方法

「文学形式」は文体・使用言語・文学ジャンル・翻訳・語彙・雅俗の別など、膨大な文学事象を含む巨大な研究領域であり、個人研究の及ぶ範囲は限られている。また中国で起きた現象の意味を理解するには、類似性や対比性を持つ日本・韓国・台湾との比較が有効である。そこで連携研究者に、日中の散文・美文の成立について研究する鳥谷、近代中国通俗文学のジャンル形成とメディアについて論じる池田、在日朝鮮人文学を言語の桎梏と連動から論じる呉、日本統治期に三種の言語で創作した台湾詩人を研究する唐を迎えることで、近代中国の「文学形式」と「内容」との連動を、広く東アジアの視野のもとに位置づけることを図った。

4. 研究成果

(1) 途中コロナ禍の影響で中断したものの、国際ワークショップやミニシンポジウムの開催を通して、近現代中国文学・在日朝鮮人および韓国文学・台湾文学・日中比較文学といった、分野を越えた研究者らと共に、継続的な研究交流の土台を築くことについて、概ね達成したと言える。研究代表者・連携研究者・研究協力者によって開催された一連の学術会議は以下の通りである。

2017年6月「境界を超える言と文：二十世紀東アジアの文学と思想」(香港教育学院)

2017年9月「漂泊と越境：東アジアの視界における作家の流動と文学の創生」(武漢大学)

2019年3月「20世紀東アジアにおける帝国と文学」(琉球大学)

2021年1月「言文・身体・性：20世紀東アジア文学における越境と葛藤」(北九州市立大学)

2022年1月「文学／文脈／声の痕跡：20世紀東アジアにおける言説の輻輳性」（神戸市外国語大学）

なお一連の研究成果は個別の研究者によって学術雑誌投稿論文として発表されたほか、研究代表者の所属先である神戸市外国語大学の紀要において、以下の特集号として刊行することができた。

「特集 20世紀東アジア：越境する文学形式と思考の流動」、『外国学研究』93号、神戸市外国語大学外国学研究所、2019年12月

（2）上記の継続的な研究交流を通して何よりも浮き彫りになったのは、「文学形式」の研究が潜在的に持っている、研究視野の広がり可能性である。コロナ禍による研究交流の中断により、足掛け5年となった研究交流活動を通して、ワークショップなどで数多くの国内外の研究者によって提示された問題意識と研究視野は極めて多岐にのぼり、その広がりには研究代表者の当初の想定をはるかに超えるものであった。近代教育制度の成立と「話す」「書く」身体行為に生じた大きな変化、イデオロギー装置としての音読が詩情に及ぼす影響、植民地統治下で生じた一種の権力の空白を背景として出現する、方言を文学表現に載せようとする試みと葛藤、言表行為と深く結びついていながらも、必ずしも「母語」や「方言」による表現とはストレートに結びついていない「自己」の獲得や回復、近代的な自己表現の場からも政治的抑圧の場からも同時に逃げていこうとするような、「お決まりの定型」とその隙間を駆使する現代大衆文化の映像表現。刺激的な論点に満ちた報告の数々から、「文学形式」には研究の余地が広く残されていることが感じ取れる。これは今回の共同研究の最大の成果であったと言える。

（3）研究代表者の研究視野から言えば、主に以下の三点について研究と思考を深めることができた。

1930-40年代の文学状況について、従来流派や主義によって大まかな分類がなされてきた論争について、必ずしも個別の議論は流派や主義による陣営とは一致せず、イデオロギー区分だけに頼らぬ文学主張の整理が必要であること。とりわけ散文・小説の「詩化現象」や戦時下の詩歌音読に関しては、今後の研究継続の足がかりを作ることができた。

沈従文の文学表象について、「野蛮／文明」をめぐる概念史や、弱者女性像をめぐる社会の認識など、文学上の細かな表現と大きな社会背景との関連を発掘する形で論じることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計18件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 6件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 津守陽	4. 巻 93
2. 論文標題 他者性を目撃する－「民衆」を記録する一人称の語り	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 外国学研究	6. 最初と最後の頁 137-154
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 津守陽	4. 巻 50
2. 論文標題 「高貴なる野性」の発見－近代中国の「野蛮」言説から沈従文を見る	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中国 2 1	6. 最初と最後の頁 111-136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 津守陽	4. 巻 2018年1期
2. 論文標題 詩之“情”与聲之“動” 詩論抗戰時期詩歌朗誦實踐在現代詩學上的位置	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 長江學術	6. 最初と最後の頁 30-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 津守陽	4. 巻 100
2. 論文標題 「傍観者」の詩論 沈従文の評論から新文学の「詩化 / 散文化」を考える	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 野草 100号記念号	6. 最初と最後の頁 138-167
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津守陽	4. 巻 108
2. 論文標題 強がる「彼女」の語りの陰に：沈従文の性暴力表象を読む	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 野草	6. 最初と最後の頁 49-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 呉世宗	4. 巻 4(22)
2. 論文標題 詩を生きる「社会主義者（サフェージュイジャ）」 金時鐘『地平線』を読む	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育国語	6. 最初と最後の頁 4-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 呉世宗	4. 巻 73
2. 論文標題 風土の中の風土、そして動物たち 金時鐘『日本風土記』を読む	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 済州作家	6. 最初と最後の頁 211-220
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 呉世宗	4. 巻 4(20)
2. 論文標題 金石範「観徳亭」論 「でんぼう爺い」と状況	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育国語	6. 最初と最後の頁 4-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 呉世宗	4. 巻 14
2. 論文標題 はざまからまなざす 金石範「鴉の死」における主体・状況・言語そして動物	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 言語社会	6. 最初と最後の頁 146-160
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 呉世宗	4. 巻 93
2. 論文標題 帝国を引き継ぐ文学形式：1992年以降の日本現代文学における北朝鮮表象、村上龍『半島を出よ』を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 神戸市外国語大学外国学研究	6. 最初と最後の頁 167-180
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 呉世宗	4. 巻 50
2. 論文標題 身体の音から他者の音へ 崎山多美作品のオノマトペについて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会文学	6. 最初と最後の頁 12-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 唐 顯芸	4. 巻 103
2. 論文標題 頼和と台湾近代詩の出発	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 野草	6. 最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 唐 顯芸	4. 巻 9
2. 論文標題 台湾初期近代詩におけるタゴールの受容について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 コミュニカーレ	6. 最初と最後の頁 41-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池田智恵	4. 巻 42
2. 論文標題 人生を再建する読者たち：『伧儷』における読者投稿欄を例として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 内田慶市教授 井上泰山教授 退休記念号 関西大学中国文学会紀要	6. 最初と最後の頁 219-245
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鳥谷まゆみ	4. 巻 153
2. 論文標題 漂泊的自我認同 従周作人再訪立教大学時的新史料談起	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 北九州市立大学外国語学部紀要	6. 最初と最後の頁 255-283
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鳥谷まゆみ	4. 巻 93
2. 論文標題 周作人「美文」小攷：明治末期の日本文学を材源として	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 神戸市外国語大学外国学研究	6. 最初と最後の頁 95-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 鳥谷まゆみ	4. 巻 50
2. 論文標題 漂泊のアイデンティティ：周作人の立教大学訪問時における新史料から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中国21	6. 最初と最後の頁 173-196
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 鳥谷まゆみ	4. 巻 2018年1期
2. 論文標題 透明之文与紙上之声：周作人与四方太写生文観比較論	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 長江學術	6. 最初と最後の頁 18-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計16件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 11件）

1. 発表者名 Aki Tsumori
2. 発表標題 Prostitutes and Sailors as "Moral" People?: Reading Shen Congwen in Light of Debates Over Sexual Morality in Early 20th Century China
3. 学会等名 New York Conference on Asia Studies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 津守陽
2. 発表標題 “ 回歸自然 ” 在現代中國文學的譜系建構
3. 学会等名 ワークショップ「グローバルな視野とローカルの思考ー中国近代の知識経験及び文学をめぐって」（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 津守陽
2. 発表標題 近代中国における「自然人」の系譜について—沈從文の「野」叙述を入り口として
3. 学会等名 京都大学中国文学会第33回例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 津守陽
2. 発表標題 田舎の世間話—民国期散文にみる地方民衆の「記録」
3. 学会等名 第五回国際學術ワークショップ「20世紀東アジアにおける帝国と文学」（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 津守陽
2. 発表標題 “詩意”的政治 初探抗戰時期的言與詩與文
3. 学会等名 「越界的言與文：二十世紀東亞の文學與思想」工作坊, 香港教育大學人文學院中國文學文化研究中心, 2017.6.23-24 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 津守陽
2. 発表標題 聲音所帶動的情感 探尋抗戰時期詩歌朗誦實踐在現代史學上的位置
3. 学会等名 “漂泊与越境：東亞視域中的作家流徙与文学創生” 國際學術工作坊, 武漢大學, 2017.9.8-9.9 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 津守陽
2. 発表標題 穿梭於自我想象與他者表象之間 探索中國現當代文學鄉土敘事的動力
3. 学会等名 第十二屆東亞學者中文文學國際學術研討會“文學革命的百年：傳承，暗流及特異點”名古屋大学，2017.10.28-29（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吳世宗
2. 発表標題 「自己回復」をめぐる二つの議論 金時鐘と岡本恵徳
3. 学会等名 文学/文脈/声の痕跡 20世紀東アジアにおける言説の輻輳性
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 唐 顯芸
2. 発表標題 「台湾話文詩について」
3. 学会等名 文学/文脈/声の痕跡 20世紀東アジアにおける言説の輻輳性
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 津守陽
2. 発表標題 強がる言葉と傷つく身体：沈從文の性暴力形象を読む
3. 学会等名 国際学術ワークショップ「言文・身体・性：20世紀東アジア文学における越境と葛藤」（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 池田智恵
2. 発表標題 上海淪陷時期雜誌與其讀者 以《紫羅蘭》為例
3. 学会等名 日台若手研究者会議 近現代中国・台湾における通俗小説と通俗文化研究
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池田智恵
2. 発表標題 表層の物語、深層の「真情」：『天涯客』から『山河令』へ
3. 学会等名 文学/文脈/声の痕跡 20世紀東アジアにおける言説の輻輳性
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 池田智恵
2. 発表標題 80年代末中国如何梦到电气羊?: 从科学文艺到科幻小说, 《智慧树》与《科学文艺》的挑战
3. 学会等名 上海大学 Crossroads in Cultural Studies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鳥谷まゆみ
2. 発表標題 文体越境：1920年代中国小品文の形成與日本
3. 学会等名 武漢大学公開講座（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鳥谷まゆみ
2. 発表標題 好意と反感のはざまで 淪陥期における周作人の沈黙と「打油詩」
3. 学会等名 第五回国際学術ワークショップ「20世紀東アジアにおける帝国と文学」(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鳥谷まゆみ
2. 発表標題 「流動的“文化”想像：从周作人1941年訪日時新資料談起」
3. 学会等名 ワークショップ「グローバルな視野とローカルの思考－中国近代の知識経験及び文学をめぐって」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
連携研究者	鳥谷 まゆみ (Toriya Mayumi) (00580507)	北九州市立大学・外国語学部中国学科・准教授 (27101)	
連携研究者	呉 世宗 (Oh Sejong) (90588237)	琉球大学・人文社会学部 琉球アジア文化学科・教授 (18001)	
連携研究者	唐 顯芸 (Tang Hauyun) (20621676)	同志社大学・グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科・准教授 (34310)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
連携研究者	池田 智恵 (Ikeda Tomoe) (60580959)	関西大学・文学部 総合人文学科 中国学専修・准教授 (34416)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計5件

国際研究集会 言文・身体・性：20世紀東アジア文学における越境と葛藤	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 第五回国際学術ワークショップ「20世紀東アジアにおける帝国と文学」	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 文学/文脈/声の痕跡 20世紀東アジアにおける言説の輻輳性	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 “漂泊与越境：東亞視域中的作家流徙与文学創生” 國際學術工作坊，武漢大學	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 「越界的言與文：二十世紀東亞的文學與思想」工作坊，香港教育大學人文學院中國文學文化研究中心	開催年 2017年～2017年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
中国	北京大学	武漢大学	中国社会科学院	
日本	北九州市立大学	福岡大学	琉球大学	
韓国	延世大学			
中国	武漢大学	香港教育大学	北京大学	